

授業実践力向上を志向する カリキュラムの関連

新潟大学大学院教育実践学研究科(教職大学院)
高木幸子
有井優太

2024年12月14日
教職大学院協会@群馬大学

背景

院生は教職大学院全体のカリキュラムの中で様々な学びを得ている。そのため、教職大学院において各科目を担当する教員も科目間の関連を意識しながら担当科目を実施していく必要がある。

課題

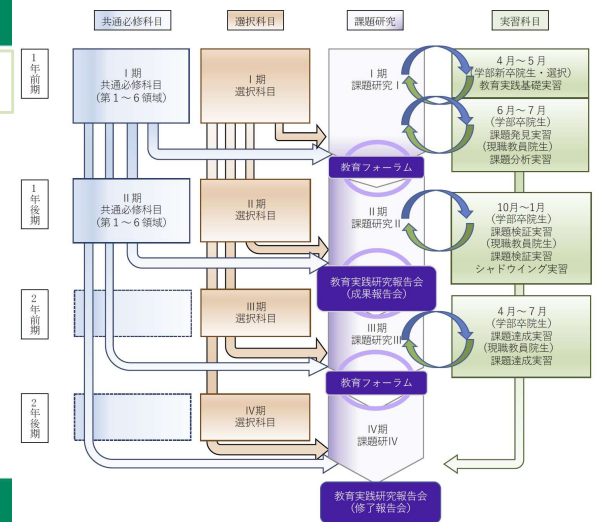
カリキュラムマップ等において、教職大学院全体のカリキュラムの中で何が授業実践力の向上に関連する科目に該当しているのかは整理されているものの、具体的にその科目間の中での関連や支柱となる理念、理論が共有されているとは言い難い。

2

実習と課題研究を軸に省察を重ねる カリキュラム全体の構造

- ・週2回の実習
観察から始め、課題研究の進展と共に授業実践の実施へ
- ・2週に1回の課題研究
自らのテーマを設定し、関連する先行研究・実践を検討し、授業や研究のデザインを構想する
- ・これらの実習と課題研究の学びの質の拡充・深化につながる
共通必修科目、選択科目

※全科目において研究者教員と実務家教員がペアとなり協働で実施している。



4

本発表では、本学教職大学院の授業実践力の向上に関連する各科目がどのような位置づけにあるのかを整理し、その関連の特徴を示す典型的な科目の具体的な取り組みと共に、実際の振り返りの記述などから院生の学びの様相を示す。

3

○カリキュラムマップ
4つの観点から全カリキュラムの関連を整理

例えば...

(1) 知識・理解
カリキュラム・マネジメントの基本を理解し具体的に説明することができる(第1領域)

(2) 当該分野固有の能力
子どもの学びや学力の三要素の育成を目指した学習をデザインし、授業改善につながる評価・分析を行うことができる(第2領域)

(3) 汎用的能力
有機的・効果的な協働による学習指導や学級経営を行うことができる

(4) 態度・姿勢
実践と省察を繰り返し、自身の学びを深めようとする態度と姿勢

本発表では、
(2) 当該分野固有の能力のうち
授業実践力(第2領域)に関わる
科目の具体的な関連を整理し
示す

授業実践力(第2領域)に関わる共通必修領域の科目

科目区分			必修・選択
領域	授業科目名		
共通必修領域	<第1領域>	1 教育課程編成の理論と実践	各領域から1科目以上必修
	教育課程の編成・実施	2 特色ある教育課程の事例研究	
	<第2領域>	3 学習デザインの理論と実践	
	教科等の実践的な指導方法	4 授業研究の理論と実践	
	<第3領域>	5 生徒指導の課題と実践	
	生徒指導・教育相談	6 発達理解の理論と実践	
	<第4領域>	7 学級経営の理論と実践	必修
	学校経営・学級経営	8 地域教育経営の理論と実践	
	<第5領域>	9 社会のグローバル化と学校・教師の課題	
	学校教育と教員の在り方	10 地域教育課題と学校・教師	
	<第6領域>	11 特別支援教育の実践Ⅰ	
	特別支援教育	12 特別支援教育の実践Ⅱ	

5

6

授業実践力(第2領域)に関わる選択領域の授業科目

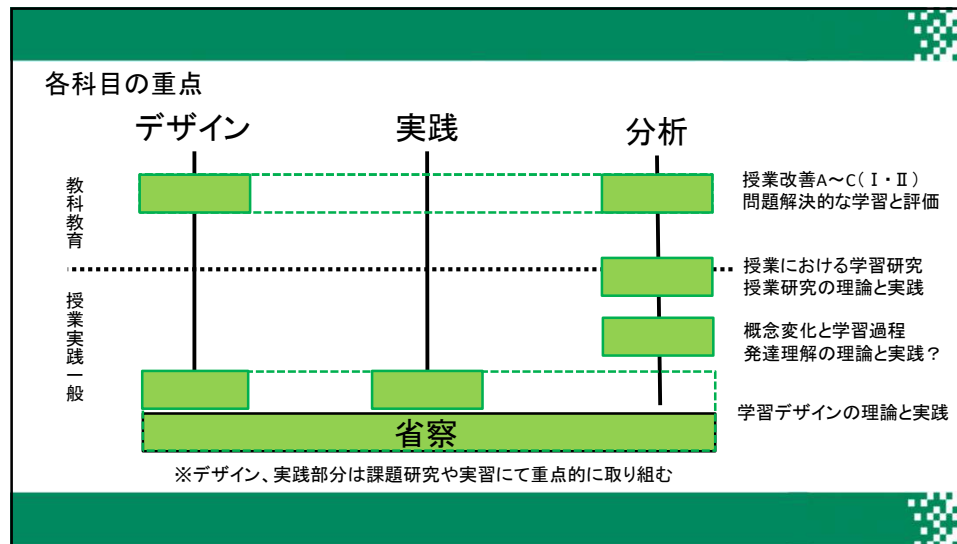
選択領域	教育実践に関する科目群	1 授業における学習研究
		2 概念変化と学習過程
		3 問題解決的な学習と評価
		4 教育相談事例研究Ⅰ
		5 教育相談事例研究Ⅱ
		6 キャリア教育の理論と実践
	教科教育実践に関する科目群	1 授業改善と学習評価A(人文・社会系)Ⅰ
		2 授業改善と学習評価A(人文・社会系)Ⅱ
		3 授業改善と学習評価B(数理系)Ⅰ
		4 授業改善と学習評価B(数理系)Ⅱ
		5 授業改善と学習評価C(芸術・体育系)Ⅰ
		6 授業改善と学習評価C(芸術・体育系)Ⅱ

7

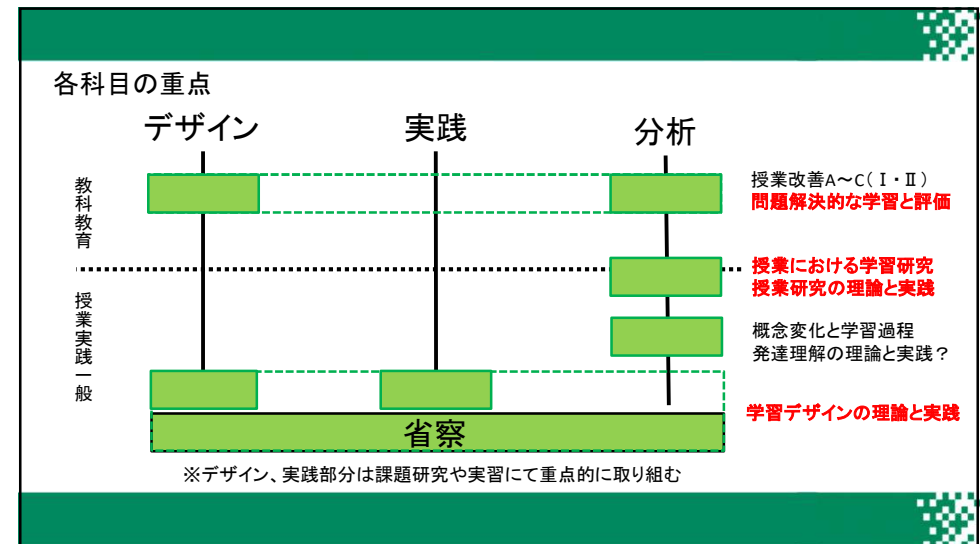
授業実践力向上の要点

- ① 実践研究や授業実践の認識枠組みの刷新
- ② 授業実践を捉える概念枠組みの習得
- ③ 授業実践を分析する授業研究方法論の習得
- ④ 上記の経験を、授業デザインや授業実践、授業後の振り返りにおいて実践

8



9



10

NiGATA UNIVERSITY

前期共通必修(集中) 授業デザインの理論と実践

- ①実践研究や授業実践の認識枠組みの刷新
○『省察的实践家とは何かの読み込み』
- ④上記の経験を、授業デザインや授業実践、
授業後の振り返りににおいて実践
○指導案検討
○模擬授業
○授業をどのように経験していたかを共有することを軸とした語り合い

11

講義の基本的な構造

- ①文献講読(事前課題)
グループ協議
文献を自らに引き付ける
グループ協議
- ②授業づくり
- ③模擬授業

12

▪ Schönの位置づけや他の関連文献も適宜紹介

近年、広く「省察」という考えが用いられている一方で、

「省察」概念の脱文脈化による形骸化や、単なる

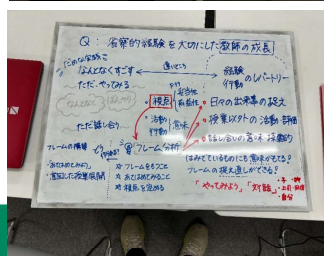
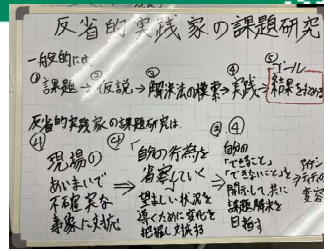
「振り返り」へと矮小化されていることに気づいていく。

また、実践と研究との関係や授業実践、教師の成長

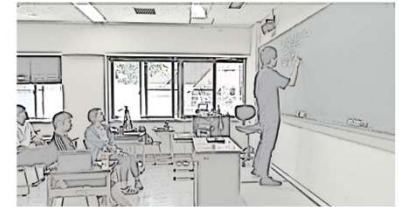
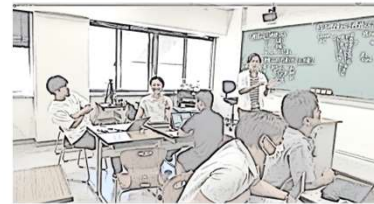
の在り方について考えていく中で、**実証主義的な**

枠組みの中で省察概念が採用されていることの

矛盾にも気づき、その在り方について考えていく。



- ②授業づくり
個別検討+グループ協議
- ③模擬授業
グループ協議・省察



13

14

文献の理解が深まっている記述

○今日の講義において自分のグループで考えたことを軸に、自分の学びを自分の言葉で書いてください。また、もう少しみんなで議論したいもやもやしている点などについても書いてください。

「専門家の知恵」は、自分だけで読んでいるときは理解しづらい内容が多かったが、今日の講義の中でグループの4人で「これってどういうこと?」「これわからなかったんだけど...」「あーそれ私も線引いたよ。」というようにみんなで声を出していったことで、どんどんショーンの主張が明解になってくるようで非常におもしろかった。

まず、ショーンの主張が時系列で並ぶように、時間軸に沿ってキーワードを探しながら読んでいった。ショーンは「技術的合理性」という言葉は何度も使っていたが、グループではいまいちその言葉の意味するところを理解できていないという共通の思いがあったので、その言葉の意味の解説から始めた。「技術的合理性」とは19世紀後半の専門職に対する考え方であり、専門職の知識と実践をつなぐものという考え方であった...

(現職)

課題研究の内容と模擬授業、文献を重ね合わせる記述

○自分の授業実践について

私は、課題研究でも「対話」特に生徒同士の対話に注目している。今回の模擬授業でも、生徒同士の対話がしやすかったか、しにくかったか、それはなぜなのか、聴いてみたかった。そこで、〇〇さんから、「できる子の役をやっていたが、説明することが難しく、逆につっこまれることもあって、とても疲れた」というような主旨のお話をいただいた。昨年までの自身の実践でも、班活動で話し合わせるときに、「分かっている生徒が分からない生徒に伝えて、さらに力を伸ばしてほしい」という教師の願いがあるものの、これを達成するために悩む点が多かった。...これに関連して、思い出されることがあった。それは、6月に勤務校へ行ったとき、初任者の先生(英語)である。...このようなとき、ペトラとクエストがやっていたように、課題をはっきりさせ、解決のための枠組み転換と実験・評価を行うことで、何が課題かはっきりし、打つ手立てが見えてくるように感じたし、私自身も現場でそのような説明ができればと思った。

(現職)

15

16

授業づくりの過程と文献を重ね合わせる記述

○授業づくり、模擬授業、検討会で学んだこと、感じたことを実践の過程に即しながら具体的に記述してください。
○その際には、可能な限り前半での文献検討の内容、自身の○○観の再確認・発見・変容について意識して記述してください。

授業づくりの際には、**教師として技術の伝えたいことを授業の中で表現することの難しさ**を痛感した。自身が思い描いていた指導案では、伝えたいことも伝えられていないし、教師の質問や発問の意図を考えるとということをしないうまま、ただ問いを投げかける授業だったということが分かった。**高木先生との指導案検討の際に、...授業後のレポート作成のときに、○○さんから「高木先生と××くんの指導案検討がクイズとペトラの自己の行為についての(on)省察になっている」とご指摘いただいた。指導案で考えたことをもとに、高木先生が本質を見取り、枠組みを再設定する...**
(ストマス)

17

NIGATA UNIVERSITY

前期選択 授業における学習研究

①実践研究や授業実践の認識枠組みの刷新

○授業について語り合うとはどういうことかを考える

②授業実践を捉える概念枠組みの習得

○先行研究の読み込み

③授業実践を分析する授業研究方法論の習得

○授業実践の記述の在り方について考える

18

講義の基本的な構造

①文献講読(30-40分)

グループ協議

②授業ビデオの視聴(45-50分)

グループ協議

一部、文献や授業動画を事前に視聴してきてもらうことなどもあるが、基本的には講義内で完結



①文献例

佐伯胖(1992)学びの場としての学校、学校の再生を目指して、東京大学出版会
一柳智紀(2017)教室のコミュニケーションからみる授業変革、学びとカリキュラム、岩波書店
楠見友輔(2021)ニュー・マテリアリズムによる教育研究の可能性、教育方法学研究46
稲見昌彦(2016)スーパーヒューマン誕生！人間はSFを超える、NHK出版新書
斎藤喜博(1995)授業と教材解釈、一草書房
富山市堀川小学校(1984)生き方が育つ授業、明治図書

②授業ビデオ例

小学生 5年社会科(歴史)
小学生 特別支援学級(国語)
小学生 1年算数
中学生 英語
幼児 レッジョエミリア

主なテーマ
学習論
幼小連携
対話
身体性
授業の記録

各回
(90分×2コマ)
テーマに基づく①、②を
組み合わせて展開

19

20

今年度の新たな取り組み

附属学校との連携・教科教育的側面の強化



参観した授業を基に、グループ協議



実践



実際に
行い感じる



21

振り返りの一例

文献・動画・実践・実習での観察を結び付けて考える記述

ビデオを見た後のグループの話し合いの中で、子どもは、木の枝を音が出るものだとは思っていないで、たまたま触ったら音が出たことから、音が出るものを探している。これはものが子どもに語りかける(音を出す)ことで、子どもはこの語りかけを受けてものから音がでることを楽しんでいたのではないかという話が出た。私も実際に Komakoma の動画作成において作業をしている時、対峙しているそれを「もの」というよりは相手というように見ていて、言うことを聞いて動いてくれず、わざと反対方向に転げたりする。意志があるように感じて、私と相手のやり取りのように考えていた。ここから、教師と生徒で考えたときに教師と生徒がやり合う(戦う)とはなんだろうかと考えた。教師が問いを提示したとして、それについて生徒が意見を出す。
(ストマス)

22

振り返りの一例

文献・動画・これまでの実践経験やその根底にある信念を結び付けて考える記述

子ども同士の対話により学びを深める姿を目指している。しかし、実際にはそのような場をうまく組織することができていない。また、現在の実習で発表的な会話ではない子ども同士の対話を探しているが、なかなかそのような場に出会うことができていない。その点で今日の文献は今求めている文献であった。心に残ったのは、「探索的な会話」である。子ども同士の対話により学びを深める姿を目指すと言いながら、具体的な姿をイメージできていなかったように思う。探索的な会話のように、児童が躊躇や中断、さらには「～かもしれない」「たぶん～だろう」といった仮説的な話し方によるたどたどしい語りができる場を授業の中に位置付けなければならぬと感じた。そのために必要なのが、多様な解・解法のある課題や難易度の高い課題といった挑戦的な課題を設定することなのだと思う。実際に今日のビデオの算数の問題はそうだった。違いの数は示されているが、多い少ないという関係は分からない。
(現職)

23

NIIGATA UNIVERSITY

後期選択 問題解決的な学習と評価

- ②授業実践を捉える概念枠組みの習得
○具体的な教科等を取り上げ授業プロセスの見直し
- ④上記の経験を、授業デザインや授業実践、授業後の振り返りにおいて実践
○自身の実践を振り返り授業構造の視点から再構築

24

講義の概要

- ・第1回 全体の流れ、
講義(知識・技能や指導過程)
- ・第2～4回 講義・演習
 - ・指導過程と子供の学び／学びの構造
 - ・各教科等における問題解決的な学習や評価
- ・第5～6回 自身の授業を対象とした見直し・再構築
- ・第7回 報告会・交流
- ・第8回 総合省察

扱う教科等：家庭科や道徳など(以下は、家庭科の例)

1. 資質・能力を基に授業過程を構想 (対象：布を用いた小物製作)

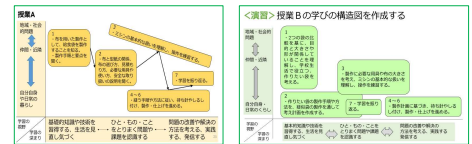
学習指導要領の文言を基に授業の流れを構想

1	①材料の布	3	6	12	10	10
2	②製作手順	5	7	13	13	13
3	③製作手順	11	7	13	13	13
4	④製作一準備作業	8				
5	⑤製作一仕上げの作業					
6	⑥製作計画一形や大きさ	9	2	6	4	4
7	⑦製作計画一形や大きさ	11	7	13	13	13
8	⑧製作計画	12	12	12	12	12
9	⑨ミシン縫い	13	13	13	13	13
10	⑩ミシン縫い	13	13	13	13	13
11	⑪用具の安全な取扱い	13	13	13	13	13
12	⑫用具の安全な取扱い	13	13	13	13	13
13	⑬ミシンの扱い方	13	13	13	13	13

異なる授業の流れが構想される

2. 子供の視点から授業をとらえる (2つの授業例を学びの構造図に可視化)

子供が何を学んでいるのか協議を通して可視化



身につける資質・能力は同じでも、
異なる授業の流れが構想されることを可視化

3. 自身の授業実践の見直しと再構築(考える時間や協議する時間の重視)
4. 報告・交流を基に総括

25

26

自分のありようやこれまでの学びとつないでいる記述

他者の発表を通して、いくつか気付いたことがある。例えば、〇〇さんの発表では、問題解決の学習を3段階で構成しているように捉えた。1つ目は「楽しい、やってみたい」を通して、発見や疑問を持たせる。2つ目は、「生活に役立つ力」「生きる上で必要な力」を身に付けさせようとしている。ここには、その人を変える力が働くと思う。そして、3つ目は主体的に自らが学びを得て、それを発信したり表現したりする場の提供である。つまり、「いきなり勝手に学んでね」は問題解決的な学習ではなく、教師がある程度枠組みを用意して、子どもが主体的に学べる時間を設定することが大事なのではないだろうか。△△さんの発表でも、問題を解決するための手立てをいくつも用意してから、自由な活動へと導いているのが分かった。△△さんは、緻密に計算しながら子どもをコントロールしている。だけど、押し付けたり強制したりしている様子は全く見られない。このへんが問題解決学習に向かう教師の姿勢なのかもしれない。私が苦手な「待つ」という姿勢である。前期の有井先生と田代先生の「授業における学習研究」の中でも、子どもの創造性や学力の捉え方、子どもの本来持つ学ぶ力について視点を向ける勉強をしてきた。そのつながりを思い出しながら〇〇さん、△△さんの発表を聞いていた。(現職)

27

NIIGATA UNIVERSITY

後期共通必修 授業研究の理論と実践

①実践研究や授業実践の認識枠組みの刷新

○授業研究の歴史的変遷を解説

③授業実践を分析する授業研究方法論の習得

○グループ単位で授業分析の実施

28

本講義を通じた自分の授業の見え方の変容

①授業直後の意味付けと授業分析後の意味付け(自身の見えはどう変わったか変わらなかった)

○授業直後

私は、運動が苦手な抽出児は、チームの課題を理解していたと思われるが、その目標があまりにも高く、自分の課題までおろすことができなかったと考えていた。抽出児は、チーム課題と技能差のずれが大きかったとしていた。また、抽出児はほとんど動くことがなく、運動量は確保できていなかったと捉えていた。...

○分析後

まずはチーム課題と個人課題のずれについて考えてみる。自分の中では、**授業直後と分析後で変容することはなかった。むしろ分析することでより一層チーム課題と個人課題のずれの大きさが際立ったと考えている。**次に抽出児の運動量についてである。直後は運動力が全くなく少なかったと考えていたが、分析してみると、**意外と体を動かしていたことが判明した。**補助倒立に関わる動きに目がいくことで、他の動きが見えづらくなっていったと考える。

今後に向けて

- ・授業実践力向上に関連する科目間の位置付けを整理することができた。また、それらがどのような理論的・理念的支柱に支えられているのか、院生の学びがどのようにつながっているのかについても検討し整理することができた。
- ・これらの整理や院生の学びの事実をもとに、授業実践力向上に関連する科目を担当している教員間で意識を共有しカリキュラムを改善していくことが必要である。
- ・また、授業実践力のみならず、学校経営や特別支援教育といった本学が掲げる理念に照らした科目間の関連や、領域を横断した教職大学院としてのカリキュラム全体の構造の関連を整理し更なる改善を行っていくことも必要である。

・これらの整理や院生の学びの事実をもとに、授業実践力向上に関連する科目を担当している教員間で意識を共有しカリキュラムを改善していくことが必要である。

・また、授業実践力のみならず、学校経営や特別支援教育といった本学が掲げる理念に照らした科目間の関連や、領域を横断した教職大学院としてのカリキュラム全体の構造の関連を整理し更なる改善を行っていくことも必要である。

グループ発表の準備や作成資料例

【図1】は、授業開始直後の「①移動して壁に向かって倒立する場面」の分析である。

Task	Start Year	End Year
提案 (Proposal)	0	1
Car X Development	0	7
評価 (Evaluation)	1	2
改善 (Improvement)	2	3
合意形成 (Consensus Building)	3	4
活動 (Activity)	4	5

授業分析についての学びを課題研究とつなげる記述

本講義を通じた自分の授業の見え方の変容

②この講義を通して学んだこと、所属校や自身のこれからの授業研究(＋課題研究)に生かせるか 本講義の具体に即しながら論じてください。

今回の授業では、目的や前提が明確になっていないと、どのように分析するかが見えてこないということを学んだ。自分たちのグループの分析は...そして、同じ授業であっても、何を目的に、どのような方法で分析するのかによって授業の見え方が全く変わるということを学ぶことができた。...課題研究においても、目的や前提が明確にし、考察と正対させること、目的に合った分析方法を模索し、分析結果の客観性を高めること、研究内容を端的に伝える力・書く力をより高めていくことなど、自身が課題と感じていることやこれからさらに学んでいくことは山積している。課題研究の内容をより多くの人に理解してもらえるよう、本講義での学びを生かし、研究を進めていきたい。

(現職)